

公害防止管理者制度の実情

社団法人産業環境管理協会

事業所の公害防止組織

(1) 公害防止統括者

工場の公害防止に関する業務を統括・管理する役割。工場長等の職責にある者が適任で、資格は不要。

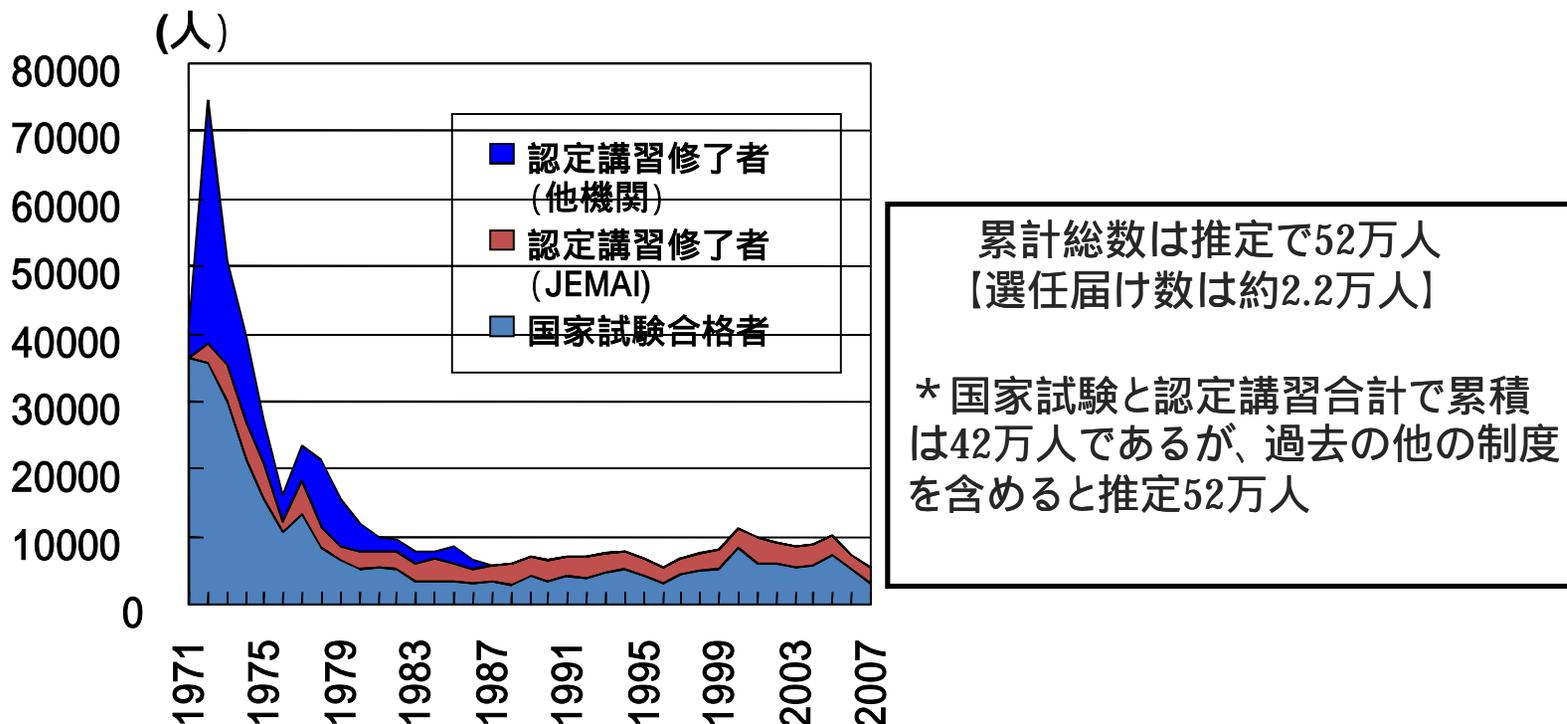
(2) 公害防止主任管理者

公害防止統括者を補佐し、公害防止管理者を指揮する役割。部長又は課長の職責にある者が想定され、資格が必要。

(3) 公害防止管理者

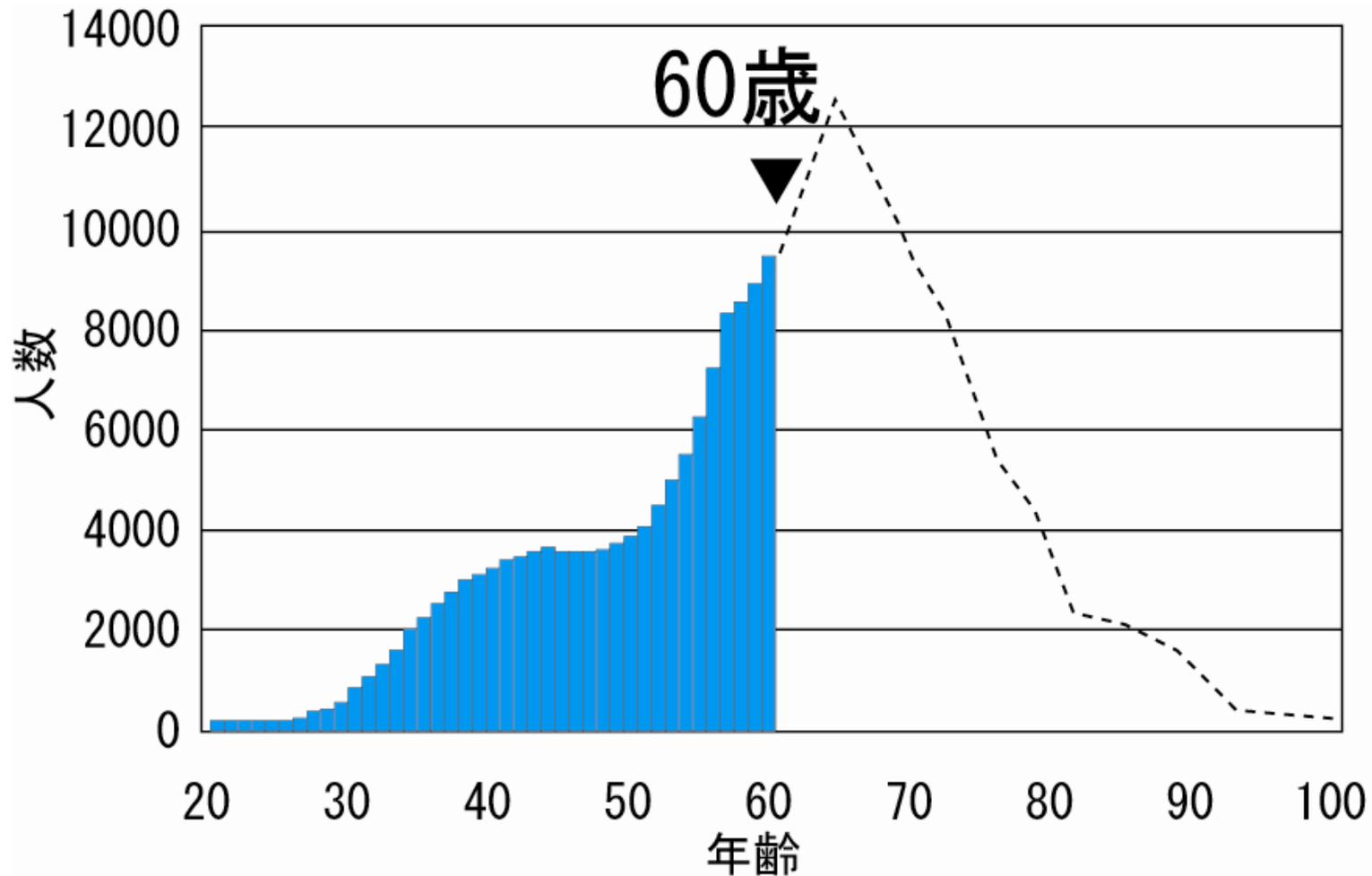
公害発生施設又は公害防止施設の運転、維持、管理、原材料、燃料の検査等を行う役割。施設の直接の責任者が想定され、資格が必要。

公害防止管理者資格取得者数の推移

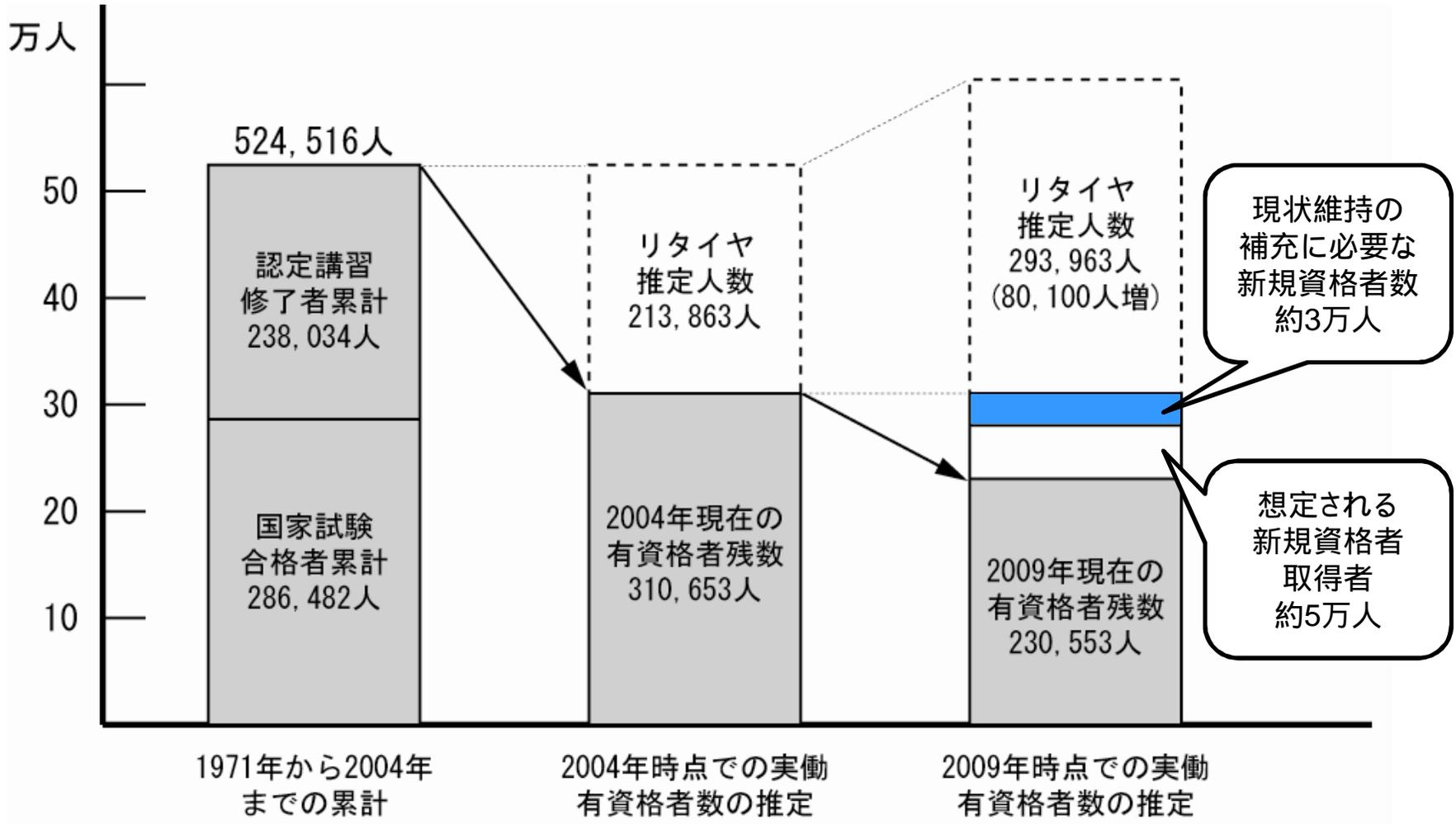


公害防止管理者等の資格取得人数の推移 昭和46、47年度～平成20年度

	昭和46年度	昭和47年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	累計
国試	36,385	35,667	5,134	3,132	6,127	314,056
認定	-	3,005	2,057	2,340	2,639	110,638
合計	36,385	38,673	7,191	5,472	8,766	424,694



公害防止管理者（国家試験合格者）年齢分布の推移（2009年予測）



公害防止管理者数の推移予測

出典：CEAR No. 28

表 平成20年度国家試験合格者(総数6,127人)の業種別割合

業 種	比率(%)	業 種	比率(%)
化学工業	24.5	窯業・土石	3.4
鉄鋼業	7.5	木材・木製品・パルプ・ 紙等製造業	2.7
電気・ガス供給業	7.1	石油製品等製造業	2.6
金属製品製造業	5.5	輸送用機械器具製造業	2.4
食料品等製造業	4.4	繊維工業	1.4
一般・精密機械器具 製造業	3.6	鋁業	1.2
電気機械器具製造業	3.4	その他	30.5

年齢別構成：10代(0.6%)、20代(26.5%)、30代(40.0%)、40代(23.2%)、
50代(8.4%)、60代(1.0%)

研修実施の背景

公害防止管理者等の業務に関する知識、経験等の不足、適切な対応ができなかった事例など

公害防止管理の認識が相対的に低下。

団塊世代の退職や熟練者のリストラにより、現場における公害防止の知識や技術、経験の継承が困難になっている

有資格者の再教育

研修の目的

公害防止管理者制度の重要性、責務等の認識向上

最新の環境規制や環境保全対策等の動向に関する知識・技術の維持向上

受講者の費用負担をできるだけ少なくし、広く受講をすすめることにより、公害防止に資する研修として全国展開

研修内容

公害防止に関する環境管理の在り方(公害防止ガイドライン)に準拠

- (午前) 環境法令 + 環境管理実務(2講座)
- (午後) 事例から学ぶ環境管理・公害防止(2講座)
- 1日研修, 約600ページの専用テキスト, 受講修了証発行

再教育

責務認識の向上

最新情報の提供

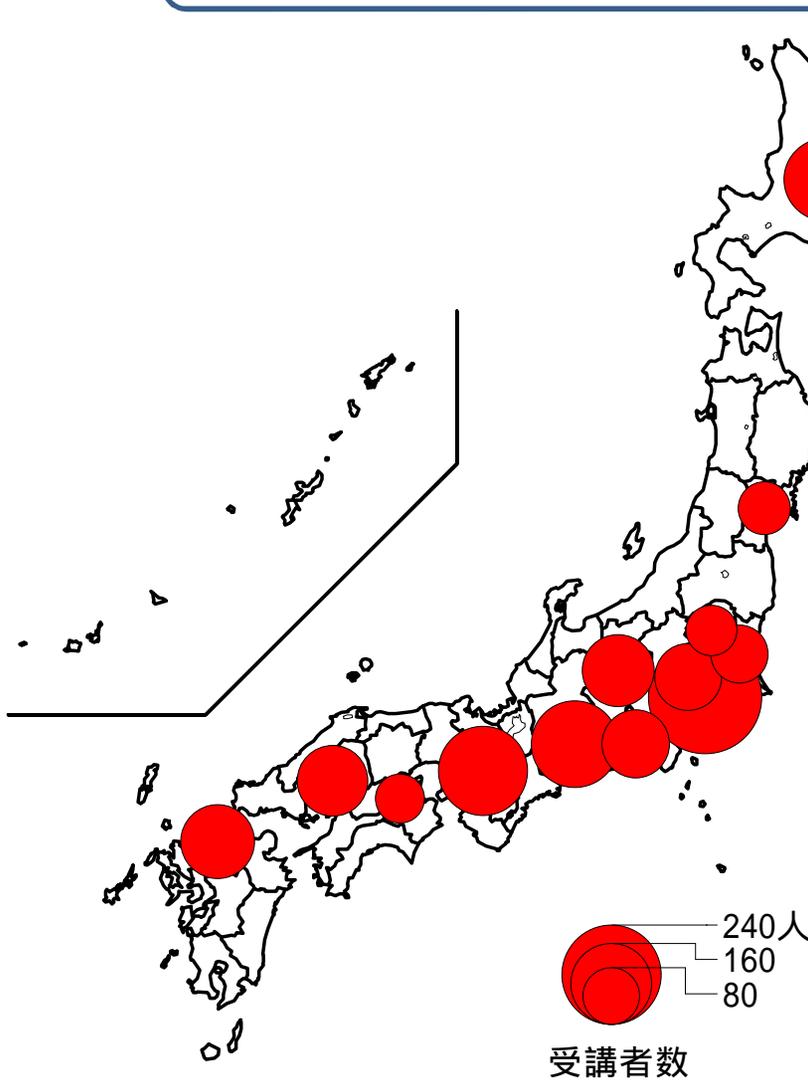
知識・技術の維持向上

現場経験有の講師陣

事例中心の講義

充実した1日研修

平成20年度 リフレッシュ研修の結果

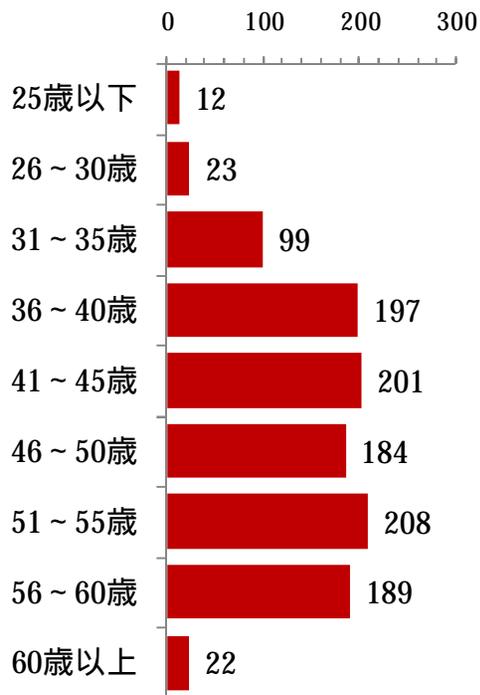


全国13箇所開催
約1,800名の受講者

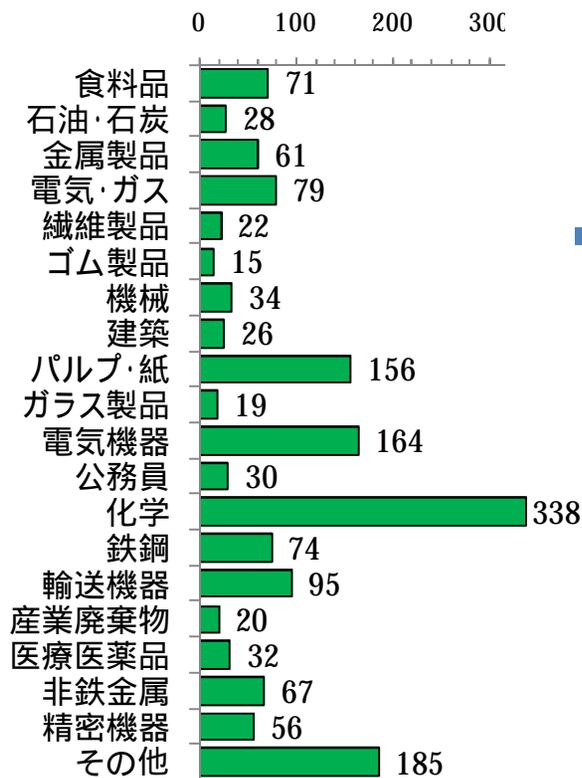
開催地	開催日	開催地	開催日
茨城県	2008年08月27日	大阪府	2008年11月07日
広島県	2008年09月12日	愛知県	2008年11月14日
宮城県	2008年09月26日	北海道	2008年11月21日
静岡県	2008年10月03日	香川県	2008年12月02日
栃木県	2008年10月22日	福岡県	2008年12月09日
東京都	2008年10月31日	埼玉県	2009年01月23日
長野県	2008年11月04日		

研修受講者の内訳

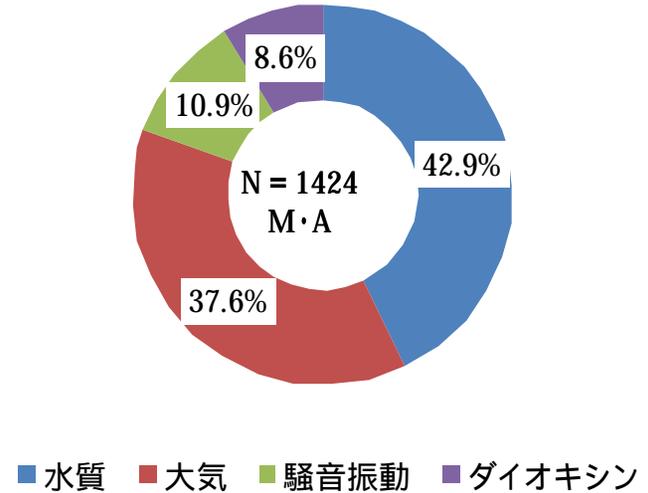
年齢層



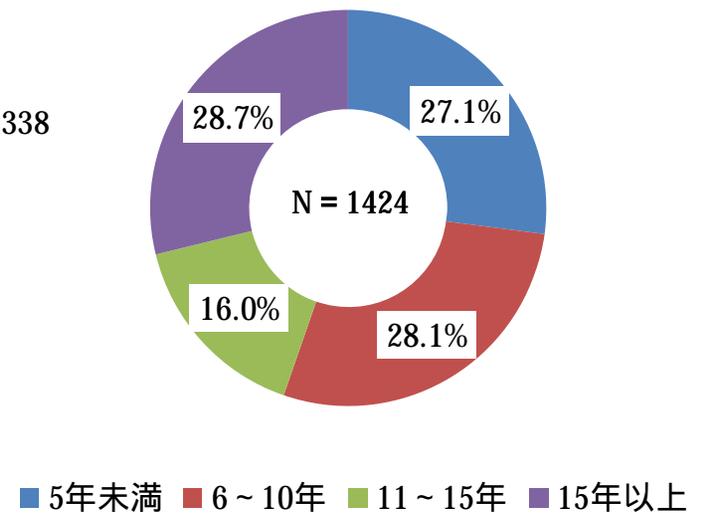
業種



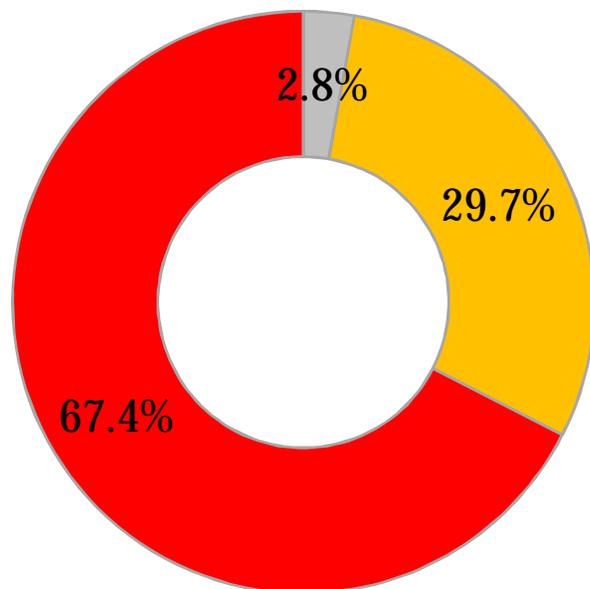
受講者の資格種別



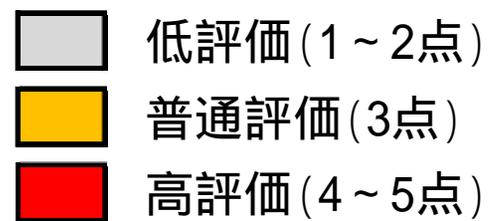
資格取得経過年数



受講者の評価



受講者の満足度評価



- 実務経験に基づいた講義内容で大変参考になった。
- 成功例よりも失敗例がいかにためになるかを実感した。
- 法令や環境管理の基本を改めて体系として理解できた。

平成21年度(5月～9月) 研修の概要

1 公害防止管理者等リフレッシュ研修会

主対象: 公害防止管理者等
内容: 平成20年度研修(法令/事例等)と同様

約500名

2 公害防止管理者向け継続研修 「環境担当者向け実務コース」

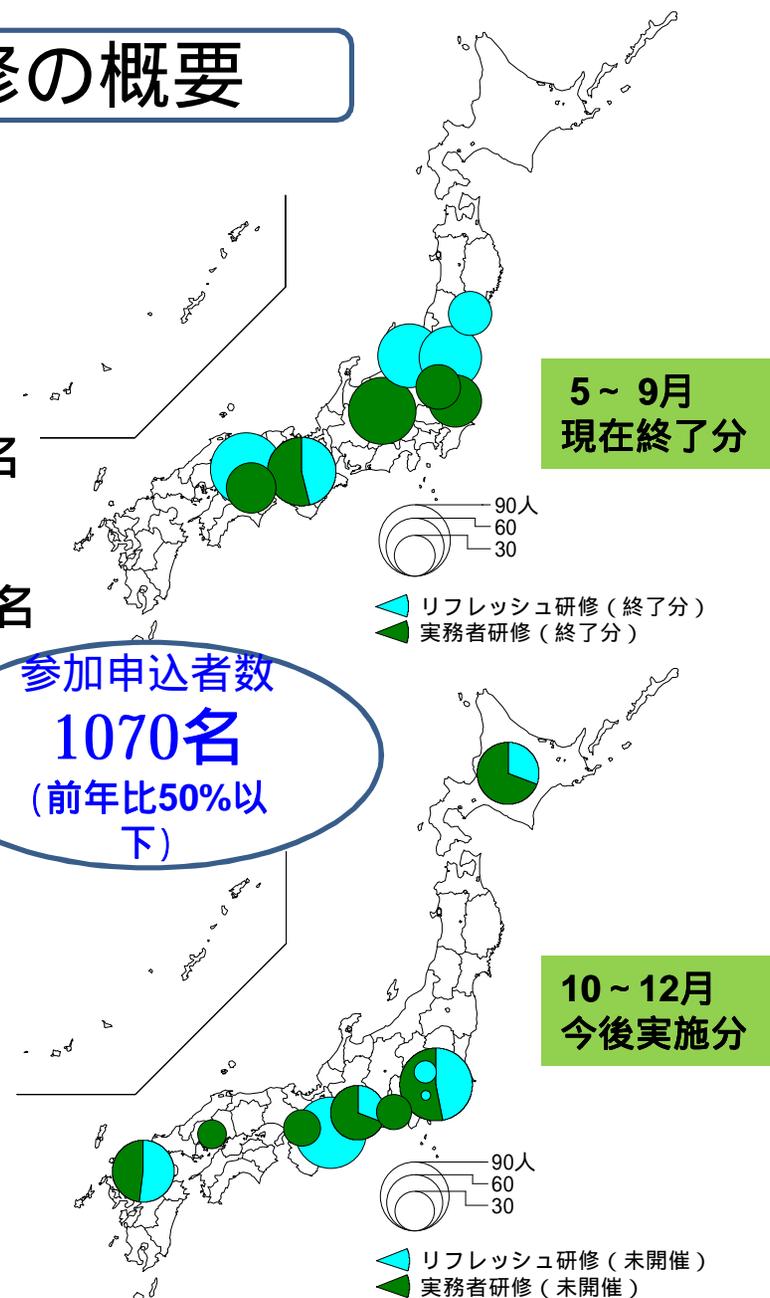
主対象: 公害防止管理者等 + 環境担当者
内容: 公害防止関連 + 廃棄物管理の講義

約500名

3 工場経営コンプライアンスセミナー

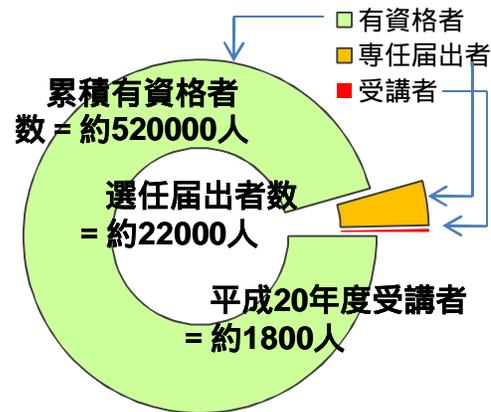
主対象: 管理職, 工場長等(東京会場のみ)
内容: 環境経営 + コンプライアンス

廃棄物排出者の責任強化により実務コース参加も多いが、より積極的なリフレッシュ研修受講が期待される。



研修の課題

受講者の限定性



平成20年度受講者は全国選任届出者(約22,000人)の10%弱

【本年受講率は減少】

自治体等の協力

中小企業者への研修受講の拡大には自治体など行政を通じた企業への広報促進体制の推進が不可欠

業界団体→大中堅企業
自治体等→中小企業者

(例)自治体名での発信
(例)自治体や環境保全協議会等を通じた広報

景気変動

不景気による企業の研修意欲減退？
費用負担がネック？

景気動向に関わらず、公害防止、環境管理は企業経営において最重要課題

受講者の費用負担の軽減